

# Newsletter from the Principal's Desk

自らの賜物を 最大限に活かし 拓かれた未来へ

No. 2

Monday, April 14, 2025

函館市杉並町 2 3 - 1 1

遺愛女子中学校高等学校

## すべては『ことば』から

2025 年 4 月 11 日（金）礼拝のお話

「言は肉となって、わたしたちの間に宿られた。わたしたちはその栄光を見た。それは父の独り子としての栄光であって、恵みと真理とに満ちていた。」

（ヨハネによる福音書 1 章 1 4 節）

今日のテーマは聖書です。聖書のいちばん始め、旧約聖書の最初のところに、神はことばで世界を造ったという話があります。ことばによって何かを造る。そんなことがあろうはずがないと思われるのでしょうか。人間関係はことばによってつくられるのです。ことばで出来上がった人間関係はその人の人生を変え、生き方まで変えてしまいます。ことばは大きな力です。

聖書のことばで「言は肉となって、わたしたちの間に宿られた。」これは、イエス・キリストのことを指し示しますが、この言と訳されている新約聖書のギリシア語は  $\lambda o\gamma o s$  ということばです。2 年生、3 年生は良く知っていることと思います。 $\lambda o\gamma o s$  ということばを聖書では無理やり言という一文字にしていますが、もとの  $\lambda o\gamma o s$  が持つ意味は、ことば、真理、真実、理性、概念、論理、命題、事実、説明、理由、定義、理論、思想、議論、論証、整合、言論、発言と色んな意味に訳されます。この  $\lambda o\gamma o s$  ということばが英語になったとき  $-l o g y$ （-ロジー、-ロギー）、英語の接尾辞, suffix になっていて、「～論」、「～説」、「～学」、などを意味します。anthropology, 人類学、archaeology, 考古学、cosmology, 宇宙論、ecology, 生態学、geology, 地質学、ideology, イデオロギー、methodology, 方法論、mythology, 神話、oncology, 腫瘍学、psychology, 心理学、sociology, 社会学、theology, 宗教学。考えてみると、ありとあらゆるものは  $-l o g y$ ,  $\lambda o\gamma o s$  と関係しているということです。

そうです、色んなことがことばによってつくられますが、しかし同時に、ことばによって壊れます。思いやりのないことばは、それまで築いてきた人間関係をいとも簡単に破壊します。「頑張ったね」のひとことが更なるやる気を生み出し、はたまた軽薄な、根拠のない発言が人を苛立たせ、ときに絶望の淵に追い込むのです。考えなしの、思いつき発言も人間関係を壊し、信頼を失います。ことば数が多ければ信頼されるわけでもないのです。

神は聖書のことばを通じて人間に語りかけています。キリスト教はことばの宗教とも言われるのは、そういう理由です。ことばを大切にしたいと思います。

## 卒業生が遊びにきました。

2024年3月に卒業した卒業生が遊びにきてくれました。函館厚生院看護専門学校で学ぶ4人です。たまたま授業の空き時間ができたので母校に遊びに行こうということになったそうです。驚いたのは、4人の内3人は、お母さんが遺愛の卒業生だということです。校長室にある卒業アルバムから自分のお母さんを探し出して感動していました。親子で母校が同じとか、いつ学校に戻ってきても担任だった先生たちがいるというのが私学ならではの良いところです。



# エンカウンターと対面式

春はなんだかうきうきします。それは新しい出会いがあるからでしょう。遺愛では、新入生たちが一日でも早く「遺愛生！」となれるよう、いくつかのプログラムが用意されています。

最初はエンカウンターというプログラムです。エンカウンターは、「出会う」「遭遇する」という意味のことばです。英語では“encounter”と書きます。初めは緊張した面持ちだった新入生もゲームや交流を通じて、次第に笑顔が増えていきました。グループ活動では、お互いに自己紹介をしながら打ち解け合い、楽しい雰囲気になっていました。

対面式では、在校生からの温かい歓迎の言葉に、目を輝かせながら耳を傾ける姿が印象的でした。工夫を凝らした部活動紹介もあり、これから始まる学校生活への期待と希望に満ちたひとときとなりました。



## 先輩からのおたより

北海道大学法学部 井上理咲子さん

北海道大学法学部 4 年の井上理咲子と申します。遺愛生だった頃は、学校の課題や部活動(弓道部)に励む日々を送っていました。本日は高校生活の過ごし方についてお話したいと思います。新年度を迎えたばかりの時期でしょうか。これからの 1 年に期待が膨らむ一方で、進路や勉強に不安を感じる方も多いかもかもしれません。私の経験が少しでも参考になれば嬉しいです。

## 1 高校での勉強について

まず、学校の授業を軸に勉強に取り組んでほしいと思います。何度も言われたことかもしれませんが、授業をおろそかにして良い成績をとる人は、高校・大学通じて私も見たことがありません。授業が理解できないときは何か原因があります。基本問題を解き直す、先生や友人に質問するなど、様々な方法を試してみてください。

受験勉強では、志望校の過去問を確認し、計画的に学習を進めましょう。どの大学の試験でも、出題分野・得点配分・試験時間といった試験形式を踏まえて学習した人が合格していると感じます。得点配分と試験時間をもとに 1 問にかけられる時間を把握したり、重点的に勉強すべき分野を明確にしたりすることが大切です。私自身、時間配分を意識せずにただ過去問を解いており、本番で失敗してしまいました。闇雲に勉強するのではなく、本番をイメージしながら、最後まで諦めずに頑張ってください！

## 2 進路選択について

多くの学問や職業がある中で、自分の進路を決めるのは大変だと思います。その時は、先輩方がその進路を選んだ理由を参考にしてみると良いと思います。学部や大学の特徴・魅力を知ることができるからです。私自身も進学先を決める際に非常に悩みましたが、法学部に所属する先輩の話聞き、法学部には卒業後の進路の選択肢が多いことが特徴だと知りました。大学に入ってから将来の職業を考えたいと思っていた私にとって、法学部は最適だと思い、志望校を決めました。遺愛には進路に関する情報や大学見学のプログラムなどがあると思いますので、ぜひそれらを活用しましょう。

最後に、大学に進学すると、学問への理解が深まるだけでなく、新たなコミュニティも増え、世界が広がります。私は YOSAKOI ソーラン祭り学生実行委員会という団体に所属し、お祭りの企画・運営に打ち込みました。2-3 年生では代表を務めさせていただきました。現在は、同じく弁護士を目指す友人と共に勉強に励んでいます。こうした大学での学びや活動を通じて、遺愛での経験が確実に自分の糧になっていることを実感しています。ぜひ、1 つ 1 つの経験を大切にしながら、高校生活を楽しんでください！北大のことや法学部のことなどについて聞きたい

